

目的・方向性	学校はもちろん学校外における学びの場を充実することで、益田で暮らす子どもたちにとって生活の場すべてが学びの場となり、そのような学びの環境の中で子どもたちが育つことで、自らの人生を能動的に生き抜く力を身につけさせる。そのためには学校と学校外の学びの場をつなぐ“拠点（公民館）”や“ひと（コーディネーター）”、“支援団体（中間支援組織等）”のさらなる機能充実と連携が必要であり、協働と対話の手法により未来の担い手の育成を図る。
ターゲット	・保幼こ小中高の各年代 ・対象のプログラムに関わる大人

【①取組の進捗状況・前年度からの改善点等】	【②成果】	【③課題と今後の取組方針等】
※①～③が合致するように記載すること	※①～③が合致するように記載すること	※①～③が合致するように記載すること
I. 連携した取組 （１）子ども福祉課、学校教育課 （ア）益田市版保幼こ小接続カリキュラムを活用した取組 【前年度からの改善点等】 研修に公開保育を加えて、参加する小学校の教職員に、より保育現場を知ってもらえる機会を設定した。 【進捗状況】 ・15 小学校区ごとにおける保育所・幼稚園等・小学校の計画的な交流活動の実施。小学校区ごとに随時実施 ・研修会の実施 第1回 令和6年5月14日 第2回 令和6年8月9日（保育公開＋研修会） 第3回 令和7年2月25日 （２）学校教育課、協働のひとづくり推進課 （ア）総合的な学習の時間の充実にかかる取組 ふるさと教育の見直しに関する協議 【前年度からの改善点等】 協議内容の対象に絞った会議構成とし、議論しやすい環境とした。 【進捗状況】 第1回会議：令和6年8月1日 参加者：公民館職員、小学校・中学校教員 協議内容：ふるさと教育の見直しについて 第2回会議：令和7年2月13日 参加者：公民館職員、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校教員 協議内容：R6 振り返りと共有、来年度の見直しについて （３）子ども福祉課、学校教育課、協働のひとづくり推進課、連携のまちづくり推進課、産業支援センター （ア）益田市未来の担い手育成コンソーシアム	I. 連携した取組 （１）子ども福祉課、学校教育課 （ア）益田市版保幼こ小接続カリキュラムを活用した取組 ・幼児教育施設，小学校の教職員が、県立大学と県（の指導主事）からの専門的な支援を受け、保幼こ小接続期の教育の質的向上を図った。 ・公開保育と研修会（公開保育の振り返り、オンライン講演）を実施し、子ども主体の保育を見学・知ること、幼児教育の共有が図られた。また、玉川大学大豆生田教授によるオンライン講演会により、子ども主体の保育や学校について、事例を通して学ぶことができた。 （２）学校教育課、協働のひとづくり推進課 （ア）総合的な学習の時間の充実にかかる取組 ・学校の授業としての取組と地域での取組それぞれの事例紹介を行ったことで、モデルとなる活動を知ることができた。また、地域の方向性の確認や活動のすり合わせ等、共有を図ることができた。 ・中学校区で少人数の話し合いができたので、ふるさと教育の見直しに関し、活発な議論ができた。 （３）子ども福祉課、学校教育課、協働のひとづくり推進課、連携のまちづくり推進課、産業支援センター （ア）益田市未来の担い手育成コンソーシアム	I. 連携した取組 （１）子ども福祉課、学校教育課 （ア）益田市版保幼こ小接続カリキュラムを活用した取組 【課題】 児童個々や学級集団の実態に合わせて、指導計画の内容を調整することの必要性 架け橋期の教育が充実したものになるように推進する必要性がある。 研修の継続開催を行う。 【今後の取組方針等】 年度末に各小学校区で来年度の計画を作成し、提出してもらう。 （２）学校教育課、協働のひとづくり推進課 （ア）総合的な学習の時間の充実にかかる取組 【課題】 ・地域により特色があるため、同じ話し合いのテーマでは効果的な協議の場にすることが難しい ・各地区における協議、情報共有の機会が不足している。 【今後の取組方針等】 ・話し合うテーマを地域ごとに決めるようにするなど、会議のあり方について再検討を行なう。 ・年2回の全体会の質向上と、各地区での取組充実を図る。 （３）子ども福祉課、学校教育課、協働のひとづくり推進課、連携のまちづくり推進課、産業支援センター （ア）益田市未来の担い手育成コンソーシアム

【前年度からの改善点等】 ・情報共有の場から連携・協働の場に機能を見直し、担当者会議を設けてより協働しやすい体制を構築 ・県立高校魅力化に特化したコンソーシアムを新設 【進捗状況】 ・第1回事務局会議：令和6年5月17日 ・第1回担当者会議：令和6年5月29日 ・第1回会議：令和6年6月20日 ・第2回担当者会議：令和6年10月30日 ・令和6年度実施事業の進捗共有 ・令和7年度事業スケジュールの共有 ・第3回担当者会議：令和7年1月23日 ・令和6年度実施事業の進捗共有 ・令和7年度事業計画の共有 ・第2回会議：令和7年2月21日 ・令和6年度実施事業の進捗報告 ・令和7年度新規、拡充事業の共有 Ⅱ.各課取組 （1）子ども福祉課 （ア）保育の質向上研修事業 【実施状況】 1回目(5/20)『保育の質向上とマネジメント』 2回目(6/24)『子ども理解とマネジメント』 3回目(7/29)『保護者への発信・連携とマネジメント』 4回目(8/26)『同僚性とマネジメント』 5回目(10/2)『子ども主体の保育とマネジメントのまとめ』 ・受講者：19人（昨年度受講者：20人） （イ）私立幼稚園教育研修会 【実施状況】 幼児教育の振興と児童の健全な育成を図るための研修(9/14開催) （ウ）巡回支援指導事業 【前年度からの改善点等】	・ライフキャリア教育の各プログラムを進めるにあたり、産官学が協働して取組むことに関し共通認識を持って、具体的に連携・協働する形が見られた。 ・担当者会議の実施により、現場レベルでの連携・協働の可能性について協議する場が創出された。 ○コンソーシアムで共有されたライフキャリア教育プログラム数 R6：39プログラム／R5：24プログラム Ⅱ.各課取組 （1）子ども福祉課 （ア）保育の質向上研修事業 ・ミドルリーダーを担う立場に求められる役割と知識を理解し、保育の質を高めるために必要なマネジメント・リーダーシップの能力の向上が図られた。 （イ）私立幼稚園教育研修会 ・幼児教育と社会教育の2分野で、具体的なテーマについて、各参加者が意見を出し、それをグループごとに集約して発表する形で研修が進められた。自らの意見を再考する機会となり、教育現場への応用に役立つことが期待される。 （ウ）巡回支援指導事業 ・子どもの安全の確保や子どもの主体的な活動を尊重しつつ、	【課題】 情報共有や連携・協働の可能性についての協議が十分でない。 【今後の取組方針等】 担当者会議などにより情報共有を充実させ、連携・協働体制の構築を図りたい。 Ⅱ.各課取組 （1）子ども福祉課 （ア）保育の質向上研修事業 【課題】 ・研修参加者が学んだことを園に持ち帰って実践するハードルが高い。 【今後の取組方針等】 ・研修実施予定（研修内容の見直しを検討） （イ）私立幼稚園教育研修会 【今後の取組方針等】 ・引続き毎年秋ごろ研修実施予定 （ウ）巡回支援指導事業 【課題】
--	--	---

部会名：未来の担い手部会（子ども福祉課、学校教育課、協働のひとづくり推進課）			【資料 1－1】
【①取組の進捗状況・前年度からの改善点等】	【②成果】	【③課題と今後の取組方針等】	
・各園施設訪問前に一度研修を行い、チャレンジテーマを決定することで各園の課題の明確化を図った。 【実施状況】 ・実施施設数：28 施設（昨年度実施施設数：26 施設） ・往還型研修会（4/23、10/24、1/30） ・公開保育及び研修会（11/8、11/21） （エ）放課後児童クラブと他団体が連携した取組 【実施状況】 ・対象：放課後児童クラブを利用する児童 ・ボランティアハウス（スライム作り） ・つろうて子育て協議会（大学生とボードゲーム制作、防災クッキング） ・おむすびの会（メスティンでご飯を炊く） ・リサイクルプラザ（長期休業中の出前工作） ・慰問ボランティア団体 たんぽぽ（フルートとオカリナ演奏、歌） ・おもちゃコンサルタント（木のおもちゃで遊ぶ） ・すたでいスペースとよかわ（ものづくり、水引、英会話、ウナギの掴み取り） ・みーもサマースクール（海川遊び） ・浜田少年サポートセンター（不審者対応） ・益田消防（新消防署内見学、火災から身を守る講話） ・公民館（レクリエーション、ピザ作り） ・各企業（職場見学・体験） （オ）益田市放課後児童支援員等質向上研修事業（年 4 回実施） 【実施状況】 ・対象：放課後児童クラブ支援員、補助員 ・内容：児童の特性を捉え、具体的な支援の仕方を学ぶ。 ①10/11 障がい特性理解や児童への対応について巡回指導（益田、吉田南、高津、西益田） ②10/29 放課後児童健全育成事業について（障がい特性理解と児童対応） 48 名 ③12/20 管理者研修（保護者様対応） 30 名 ④2/7 ハラスメント・虐待防止研修 42 名 （2）学校教育課	子どもの自主性、社会性等のより一層の向上を図った。 （エ）放課後児童クラブと他団体が連携した取組 ・ボランティアハウスやその他団体等の連携については、市内 18 クラブが継続的に取り組んでおり、様々な体験や地域とのつながり、世代間交流の場を提供することができていると考える。 （オ）益田市放課後児童支援員等質向上研修事業（年 4 回実施） ・支援員の質向上を目的として、委託事業として、テーマを決めた研修会の開催を行なった。今年度はキャレオス株式会社に委託し、巡回指導 1 回、研修会 3 回を実施した。今後、この研修により、児童との関わり方はもちろん、保護者対応や支援員間でのコミュニケーション等の連携を深めることで、利用児童への支援の質向上及び利用者と職員の関係構築の強化が期待される。 （2）学校教育課	・園の方針が強く、アドバイスが受け入れてもらえない施設がある。 【今後の取組方針等】 ・引き続き巡回予定 （エ）放課後児童クラブと他団体が連携した取組 【課題】 ・戸外活動を行うにあたって、児童の重大事故が全国的に発生している現状がある。各クラブ運営団体で、安全確保のための適正な人員配置や事故等の対応マニュアルの策定を行なったところだが、定期的なマニュアルの改正やクラブ毎でのマニュアルの共有及び徹底する必要がある。 【今後の取組方針等】 ・今後も継続予定。 （オ）益田市放課後児童支援員等質向上研修事業 【今後の取組方針等】 ・クラブの実情を把握し、課題に応じた研修内容の構築を図ると共にアドバイスをを行う。（継続） ・参加者へのアンケートを実施し事業内容の改善を図る。（継続） （2）学校教育課	

部会名：未来の担い手部会（子ども福祉課、学校教育課、協働のひとづくり推進課）			【資料 1－1】
【①取組の進捗状況・前年度からの改善点等】	【②成果】	【③課題と今後の取組方針等】	
（ア）島根大学等との連携事業 【進捗状況】 〔算数・数学パワーアップ教室 夏 5 日間・冬 3 日間・春 3 日間〕 ●夏休み（8 月 5 日～8 月 9 日） 会場：グラントワ、匹見下公民館 講師：島根大学 14 名（うちリピーター6 名）、島根県立大 2 名、山口大学 1 名 参加者：小学生 101 名、中学生 29 名（うちリピーター74 名） 内容：学生が企画する授業や算数数学ウォークラリー、学生との交流活動等 ●冬休み（12 月 26 日～12 月 28 日） 会場：市民学習センター 講師：島根大学 9 名（うちリピーター7 名）、島根県立大学 1 名 松江工業高等専門学校 9 名（うちリピーター2 名） 参加者：小学生 74 名、中学生 20 名（うちリピーター74 名） 内容：学生が企画する授業や算数数学ウォークラリー、学生との交流活動等 ●春休み（3 月 25 日～3 月 27 日）【予定】 会場：市民学習センター 講師：島根大学 15 名（うちリピーター10 名） 松江工業高等専門学校 13 名（うちリピーター5 名） 参加者：小中学生（応募締め切り 3 月 7 日） 内容：学生が企画する授業や算数数学ウォークラリー、学生との交流活動等 （イ）高度理数系人材育成支援業務委託 【前年度からの改善点】 【進捗状況】 契約日：令和 6 年 6 月 21 日 履行期間：令和 6 年 6 月 21 日～令和 6 年 12 月 27 日 受託者：島根県立益田高等学校 事業内容： ○小学生向け実験教室 ・益田さいえんすたうん 7 月 5 日 グラントワ大ホール 対象：小学 5・6 年生、中学生の希望者 ・出前実験・理科読を楽しむ会 12 月 3 日 市内小学校 対象：小学 6 年生、益田高校普通科 1 年生	（ア）島根大学等との連携事業 〔算数・数学パワーアップ教室 夏 5 日間・冬 3 日間・春 3 日間〕 ●アンケート結果（夏休み） 小学生（N=93）中学生（N=28） Q：算数・数学パワーアップ教室に参加してよかったと思う。 ⇒小 100％ 中 100％ Q：参加する前よりも算数・数学が好きになった。 ⇒小 96％ 中 86％ ●アンケート結果（冬休み） 小学生（N=64）中学生（N=17） Q：算数・数学パワーアップ教室に参加してよかったと思う。 ⇒小 88％ 中 100％ Q：参加する前よりも算数・数学が好きになった。 ⇒小 86％ 中 100％ （イ）高度理数系人材育成支援業務委託 【成果】 ○小学生向け実験教室 ・益田さいえんすたうん 小学 5・6 年生 406 名、中学生 39 名 ⇒ アンケート回答：参加してよかった（95%以上） ・出前実験・理科読を楽しむ会 出前実験（吉田小、益田小、高津小の 6 年生）242 名 ⇒ アンケート回答：理科が前より好きになった（57%） 理科読を楽しむ会 （吉田南小、西益田小、安田小、中西小の 5・6 年生）115 名	（ア）島根大学等との連携事業 〔算数・数学パワーアップ教室 夏 5 日間・冬 3 日間・春 3 日間〕 【課題】 小中学生の参加数増加に伴い講師を担う大学生の確保。 【今後の取組方針等】 産業支援センターとも連携しながら、講師確保を図り、益田市内から市外・県外の大学生にも参加を募る。 島根県立大学の浜田キャンパス以外の松江・出雲キャンパスにも募集を広げる。 島根大学教育学部の 1000 時間体験学修プログラムにエントリーし、教育学部の学生の参加を増やす （イ）高度理数系人材育成支援業務委託 【課題】 ○小学生向け実験教室 ・益田さいえんすたうん 参加校数・参加人数が増えたことで、体験できるブースや時間が限られたり、座席によって体験できないことがあったため、参加者が増えても対応できるよう改善が必要である。 ・出前実験・理科読を楽しむ会 理科への興味・関心を高めるきっかけづくりはできたと考えるが、一過性では持続ができないため、小学校の日々の理科の授業に少しでも実験を取り入れることができるように連携を図る必要がある。	

部会名：未来の担い手部会（子ども福祉課、学校教育課、協働のひとづくり推進課）			【資料 1－1】
【①取組の進捗状況・前年度からの改善点等】	【②成果】	【③課題と今後の取組方針等】	
○中学生向け実験教室 ・サイエンスキャンプ 8 月 3 日 益田高等学校（化学教室） 対象：中学 1～3 年生の希望者、益田高校自然科学部生徒 （ウ）中高連携学力育成推進事業業務委託 【前年度からの改善点】 【進捗状況】 契約日：令和 6 年 4 月 1 日 履行期間：令和 6 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日 （3 年間の債務負担行為） 受託者：学校法人七尾学園益田東高等学校 事業内容： ○夏季冬季休業中における自己課題解決に資する取組 ・美都ドリカム教室 8 月 5 日～7 日 申込 3 名、参加 2 名 ・匹見ドリカム教室 8 月 20 日～22 日 申込 1 名、参加 1 名 ○学力育成に資する取組 ・小学生平日夜間（英語、1.5 時間、定員 25 名） ・中学生平日夜間（英語、2 時間、定員 30 名） ・中学生平日夜間（数学、2 時間、定員 30 名） ・中学生休日（英語・数学・自学、3 時間、定員 30 名） ○自ら学びに向かうための意識の醸成と行動に結び付けるための取組 ・河合塾講演会 7 月 24 日 益田東校内 申込 16 名、参加 13 名 ※ドリカム教室参加者のみ対象 ・井手上獏講演会 11 月 11 日開催予定 グラントワ小ホール	（鎌手小、真砂小、豊川小、桂平小、戸田小、東仙道小、匹見小の 5・6 年生）64 名 ⇒ アンケート回答：理科が前より好きになった（46％） ○中学生向け実験教室 参加者：中学生 11 名、高校生 4 名 ⇒ アンケート回答：理科（科学）への興味関心が高まった（93％） ＜全体評価＞ 児童・生徒が主体的に活動する高校生に接する機会があったことについてのアンケート記述が多く、児童が数年後の目標となるロールモデルを見ることができ、科学技術人材育成の視野を広げる上で、効果が高かった。 （ウ）中高連携学力育成推進事業業務委託 【目標指数】※1 月末調査時点 ① 「自ら進んで学習する意識が高まった」肯定的回答 80％以上 ⇒ アンケート回答：81.6％ ② 個人で設定した学力向上に係る目標に対する達成度 100％ ⇒ アンケート回答：48.3％ 【成果】 ○夏季冬季休業中における自己課題解決に資する取組 ・美都ドリカム教室（3 日間） 申込 3 名、参加 2 名 ・匹見ドリカム教室（3 日間） 申込 1 名、参加 1 名 ○学力育成に資する取組 ・小学生平日夜間（英語） 申込 23 名 ・中学生平日夜間（英語） 申込 30 名 ・中学生平日夜間（数学） 申込 30 名 ・中学生休日（英語・数学・自学） 申込 30 名 ○自ら学びに向かうための意識の醸成と行動に結び付けるための取組 ・河合塾講演会 申込 16 名、参加 13 名 ⇒ アンケート回答：92％が満足と回答 ※ドリカム教室参加者のみ対象	○中学生向け実験教室 参加中学生が昨年度から約 2 倍に増加し、アンケート結果からも目的は達成できたと考えるが、科学への興味をより高め、理工系分野の進路選択について考える機会を継続して設ける必要がある。 【今後の取組方針等】 ・高校の取組を小中学生に発信する機会のさらなる充実を図る。 （R7 年度から委託事業から補助事業に切替） （ウ）中高連携学力育成推進事業業務委託 【課題】 ＜ドリカム教室全般＞ ・学習意欲の向上や勉強時間が増加したとの前向きな意見が多くあがった一方で、点数向上などの目に見える形での成果は小さい状況であるため、事業の継続実施や実施方法等の改善が必要である。 ・ドリカム教室も年々浸透してきており、定員を超える申込者数（待機有）となってきたているが、受入側の体制（人員）を確保することが難しい状況にある。 ・参加者のレベルに合わせた教材の準備や指導が必要である。 ＜講演会全般＞ ・満足度の高い講演会が開催されており、小・中学生にも理解しやすい内容であったことから、今後も継続して実施することが必要である。 ・講演テーマや講演者により参加者数が大きく影響するため、講師選定が重要である。（影響力・発信力・説得力） 【今後の取組方針等】 ・市内小中学校との連携を図り、児童・生徒の躓きや課題の共有について検討する。（継続） ・引き続き各小中学校に各事業についての情報提供を行うとともに	

部会名：未来の担い手部会（子ども福祉課、学校教育課、協働のひとづくり推進課）			【資料 1－1】
【①取組の進捗状況・前年度からの改善点等】	【②成果】	【③課題と今後の取組方針等】	
（3）協働のひとづくり推進課 （ア）ライフキャリア教育の推進 （i）対話プラスの実施 【前年度からの改善点等】 中学校対話プラスのキャストを地域（各校区）の大人を中心に集めることで、地域の大人と生徒の繋がりを作り、対話プラス実施以降の地域活動に生徒が参加しやすい仕組みづくりを図った。 未来の担い手育成コンソーシアム担当者会において、益田市 PTA 連合会との連名でキャストの依頼文を全小中学校の保護者に送付した。また、学校対話プラスのキャスト（高校生）募集について、市内高校に協力を依頼した。 【進捗状況】 中学校対話プラス：7 中学校で実施済み （高津・小野・東陽・中西・益田東・匹見・益田） 高校対話プラス：4 高校で実施済み 小学校対話プラス：14 小学校で実施済み （ii）益田版・職場体験 【前年度からの改善点等】 受入事業者の募集にあたっては、募集方法・新規開拓に関し、商工会議所・産業支援センターと協議した。 【進捗状況】 参加事業者数：140 社（R5:138 社） 実施校：9 中学校（406 人）で実施済み ・中学校担当者振り返り会（11/20）	・ドリカム講演会 参加者 223 名 （ドリカム教室関係者 81 名、一般 127 名、事業関係者 15 名） ⇒ アンケート回答：92%が満足と回答 （3）協働のひとづくり推進課 （ア）ライフキャリア教育の推進 （i）対話プラスの実施 ・PTA 連合会との連名で呼びかけたことにより、小中学校の保護者 4 名がキャストとして参加。 ・市内高校の後押しにより、小学校対話プラスの高校生キャストが 5 0 名と過去最多。 ・企業説明会や市内事業所へのインターンと組み合わせることで、生徒と益田で働くひととの継続的なつながりができ、インターンシップ等の質向上が図られた。 中学校・高校対話プラスでの事前／事後アンケート（抜粋） 【生徒】 Q:将来に対して明るい希望を持っている 実施前 28% → 実施後 約 80%（R6.12 月末現在） 【大人】 「人生を振り返るきっかけになった」「もっと夢に向かって頑張ってみようと思った」などの感想が寄せられている。 （ii）益田版・職場体験 事業者研修会の参加者満足度 89%（R5:86%） 他の事業所の方々との対話ができ、参考にしたいという意見があった。昨年より説明とワークショップのバランスが改善され、多くの事業所の工夫を共有できたことが良かったと評価していただいた。 ・生徒事後アンケート Q：自分の将来について考えることができた 85.8% ・生徒の感想（一分抜粋） 「益田市には魅力的な仕事がたくさんあると思った」 「働くうえで大切なことはいろんな人とコミュニケーションを取ることだと分かった」 ・職場体験後に自主的に事業所の手伝いをする事例が生まれたり、事業所が生徒のアイデアを形にしたりするなど、新た	に、小中学校（教職員）との関わりについても検討する。 （3）協働のひとづくり推進課 （ア）ライフキャリア教育の推進 （i）対話プラスの実施 【課題】 ・各年代におけるプログラムのねらいを踏まえ、効果的なキャスト集客について検討が必要。 ・一部中学校で大学生との対話を希望されるなど、学校が考える実施目的と市のねらい（地域の大人と生徒の繋がりづくり）との差が生じているところもあった。 【今後の取組方針等】 他のプログラムとの接続も踏まえ、プログラム実施の目的やキャスト選定基準など、次年度に向けて再度検討し、各学校ならびにつろうて子育て協議会への再周知を図る。 （ii）益田版・職場体験 【課題】 ・受入事業者の増加、新規開拓 ・各学校の実施目的とのすり合わせが必要 【今後の取組方針等】 ・益田市未来の担い手育成コンソーシアムや対話プラス参加者への呼びかけなど、受入事業者の募集方法の見直しを検討する。 ・プログラムの実施目的について、各学校に再周知する。	

（iii）対話プラス以外の対話の場 【前年度からの改善点等】 これまで実施していなかった、特別支援学級の在籍生徒における対話活動などを含め、多様な人との交流機会を活用し、対話の場を創出している。 【実施状況】 5/1 西益田 with の会（つろうて子育て全体会）多世代対話 6/10 吉田地区つろうて子育て協議会 総会 6/19 中西中学校 1 年生と地域の大人でトークフォークダンス 6/30 とよかわの未来をつくる会 総会 地域住民の対話 7/4 高津中学校イキカタズカン（中学 1 年生×地域の大人） 7/10 市内中学校特別支援学級×市内事業所 7/15 サマーボランティア開校式 参加中学生の対話 8/5 算数数学パワーアップ教室 （小学生・中学生×大学生・高専生） 8/21 早稲田大学生×益田東中学生 9/10 豊川小学校学校保健委員会 （小学生×保護者・地域の大人・大学生） 10/9 中西中学校 2 年生×大正大学生 対話の場 （修学旅行先で出会った大学生と益田で再会） 11/1 益田東中学校 6 かるトーク 12/6 高津中学校イキカタズカン（中学 1 年生×地域の大人） 12/24 益田中学校 対話活動（小野沢シネマで対話） （iv）ロールモデル接続事業 ①サードプレイスの運営 【進捗状況】 ※R7.1 月末現在 <table><tr><td>益田拠点</td><td>【小学生】</td><td>計 104 名／</td><td>【中学生】</td><td>計 30 名</td></tr><tr><td></td><td>【高校生】</td><td>計 634 名</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>【大 人】</td><td>計 1,023 名（うち、市外 234 名）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>高津拠点</td><td>【小学生】</td><td>計 3,403 名／</td><td>【中学生】</td><td>計 126 名</td></tr><tr><td></td><td>【高校生】</td><td>計 639 名</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>【大 人】</td><td>計 1,327 名（うち、市外 0 名）</td><td></td><td></td></tr></table>	益田拠点	【小学生】	計 104 名／	【中学生】	計 30 名		【高校生】	計 634 名				【大 人】	計 1,023 名（うち、市外 234 名）			高津拠点	【小学生】	計 3,403 名／	【中学生】	計 126 名		【高校生】	計 639 名				【大 人】	計 1,327 名（うち、市外 0 名）			なっつながりが生まれた。 （iii）対話プラス以外の対話の場 ・多世代対話をすることで、多様な価値観と生き方に触れる機会となり、人生を能動的に生きていくことができる力を育むきっかけとなった。 ・地域の方との対話による学びの重要性や面白さを理解している教職員が増えており、派遣社会教育主事に相談する件数が増えている。同時に、対話プラスや益田版・職場体験に参画していただいた方が別の対話の場に参加していただくなど、対話の文化が広がってきている。 （iv）ロールモデル接続事業 ①サードプレイスの運営 ・様々な高校生が来館した際、社会人来館者を交えたコミュニケーションにより、高校を超えた交流が生まれている。 ・小学校対話プラスに高校生キャストとして参加した大学生が帰省のタイミングを利用して来館するなど、新たな活動創出が期待される。 ・地域（屋外）でのイベント開催により、サードプレイスの活動について、地域の方に知っていただく機会となった。 ・若者の地域活動参画機会の創出となっている。 ・大学生や若手社会人の拠点利用により、高校生にとっての	（iii）対話プラス以外の対話の場 引き続き学校や地域の要望に応じて支援していく。 （iv）ロールモデル接続事業 ①サードプレイスの運営 【課題】 ・高校生の利用者を増やす取組が必要 ・利用目的に応じた施設の活用方法の見直し ・他のプログラム（地域活動参加・ロールモデル接続）と接続するための仕掛け 【今後の取組方針等】 ・他のライフキャリア教育プログラムとの接続を意識した仕組みづくりが必要
益田拠点	【小学生】	計 104 名／	【中学生】	計 30 名																												
	【高校生】	計 634 名																														
	【大 人】	計 1,023 名（うち、市外 234 名）																														
高津拠点	【小学生】	計 3,403 名／	【中学生】	計 126 名																												
	【高校生】	計 639 名																														
	【大 人】	計 1,327 名（うち、市外 0 名）																														

②ロールモデルのライフキャリアに触れる機会創出 【進捗状況】※R7.1月末現在 13 事例・16 人のロールモデルと出会う機会を創出 参加者：158 名	ロールモデルとの偶発的な出会いが生まれ、課題研究や地域活動のきっかけや取組の内容充実に繋がった。	
③高校生等の地域での活動の伴走支援 【進捗状況】※R7.1月末現在 37 事例 （益高：7／翔陽：26／益養：1／益田東：1／その他：2）	②ロールモデルのライフキャリアに触れる機会創出 大学生等の身近なロールモデルとの出会いにより、今後の自分自身のあり方について考えたり、新しい発見や学びを得る機会を創出できている。	②ロールモデルのライフキャリアに触れる機会創出 【課題】 参加者が極端に少ない会がある。 【今後の取組方針等】 高校生のニーズを踏まえたロールモデルを選定するなど、参加者増に向けた取組が必要
④高校でのライフキャリア教育に関する授業の企画・支援 【進捗状況】※R7.1月末現在 12 事例（益高：2／翔陽：8／明誠：1／益田東：1）・79 コマ	③高校生等の地域での活動の伴走支援 ・課題研究やライフキャリア教育授業から接続する取組として、高校生の思いを地域をフィールドに実現できている。	③高校生等の地域での活動の伴走支援 【課題】 高校によって取組事例数のばらつきがある。 【今後の取組方針等】 支援希望の汲み取り、活動への呼びかけを行う。
④高校でのライフキャリア教育に関する授業の企画・支援 【進捗状況】※R7.1月末現在 12 事例（益高：2／翔陽：8／明誠：1／益田東：1）・79 コマ	④高校でのライフキャリア教育に関する授業の企画・支援 ・各授業の企画・運営のほか、取組に有効なひと・もの・ことを紹介・斡旋することにより、内容の充実が図られている。	④高校でのライフキャリア教育に関する授業の企画・支援 【課題】 高校によって取組事例数のばらつきがある。 【今後の取組方針等】 ・地域での活動への接続を意識した取組に向けた改善 ・高校のニーズ把握など取組の充実に向けた検討が必要。
（v）夢の教室 【進捗状況】 12 小学校（吉田南・戸田・高津・吉田・西益田・匹見・安田・豊川・真砂・桂平・中西・益田）で実施済み	（v）夢の教室 ・将来への展望をもつきっかけとなった。 ・生活の中に活かそうとする姿が見られた。 ・自己形成を図るうえで、大切な要素を学ぶことができた。 ・困難や壁を乗り越えるため、かわすための手段や思い等を学ぶことができた。	（v）夢の教室 【課題】 ・実施に消極的な学校がある。 ・複数校による合同開催などもあり日程調整が難しい。 ・複式学級への対応や考え方 【今後の取組方針等】 ・事業の位置づけや実施目的など、学校に対し再周知を図る。 ・日程調整にあたっては小学校長会や学校教育課との連携を図る。 ・プログラムの参加に関して、日本サッカー協会と連携を図る。
（イ）地域学校協働活動の推進 （i）コミュニティ・スクール設置校における社会教育コーデ	（イ）地域学校協働活動の推進 （i）コミュニティ・スクール設置校における社会教育コーデ	（イ）地域学校協働活動の推進 （i）コミュニティ・スクール設置校における社会教育コーデ

部会名：未来の担い手部会（子ども福祉課、学校教育課、協働のひとづくり推進課）			【資料 1－1】
【①取組の進捗状況・前年度からの改善点等】	【②成果】	【③課題と今後の取組方針等】	
ネーターの取組 【前年度からの改善点等】 月次実施報告に併せ、翌月の事業計画を提出してもらうことで実施計画を詳細に把握し、必要に応じて助言・伴走支援できる体制とした。 【進捗状況】 令和 7 年 2 月 1 日時点：益田・豊川・真砂・西益田に配置済み 〔益田〕・運動会応援合戦に向けたダンス練習サポート ・何にもしない合宿 ・校庭でいキャンブ ・住吉神社池そうじプロジェクト ・子ども奴（七尾まつり参加） ・ユタラボ高校生企画みんなの質問「遊びについて」 〔豊川〕・すたでいスペースとよかわ（春休み・夏休み） ・5、6 年総合 「お茶摘み」 ・益田東中 2 年総合 6 かるチャレンジ ・とよかわっしょい（中高生向け居場所づくり） 〔西益田〕・としょカフェ ・親子絵本ワークショップ ・放課後活動（図書館で縫い物） ・学校おばけやしき ・燻の会 〔真砂〕・益田東中 6 かるプロジェクト ・真砂小のキラリ発見 ・真砂っ子チャレンジ ・グラウンドゴルフ交流会&合同給食 ・松江高専生とモノづくり体験教室 〔匹見〕・匹チャレ ・ひきズタイム ・5、6 年総合「自分を広げようプロジェクト」 （ii）つろうて子育て事業の推進 【前年度からの改善点等】 派遣社会教育主事を中心に、各地区の活動について、必要に応じて助言・支援し、活動の充実を図っている。 【実施状況】（主なもの） ・匹見×二条地区親子交流事業 ・通学合宿（小野・安田） ・西益田 WITH の会 ・何にもしない合宿（吉田・益田・二条・高津） ・6 かるチャレンジ、寺子屋、早稲田大学生との交流 ・学校おばけやしき	ィネーターの取組 ・コーディネーターの配置により、学校と地域が連携・協働した取組が多数展開され、地域資源を活用した体験活動や多世代交流の機会創出が図られた。特に、小学校に席があることによって、土日の活動の打ち合わせを、平日の学校の休み時間等に子どもたちと実施できている。学びや想い（やってみたい）が途切れず、活動の質が高まっている。 ・コーディネーター同士の情報共有や、派遣社会教育主事による助言・伴走支援など、より効果的な事業実施に向けた取組が可能となった。 ・関わる大人の意欲が高まり、活動に向けた支援や要望の汲み取りにより、新たな活動創出のきっかけになっている。 ・西益田小学校学校運営協議会と西益田地区つろうて子育て協議会が、令和 6 年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰を受賞 （ii）つろうて子育て事業の推進 ・子どもと多世代を繋ぐ取組、地域の大人を巻き込んだ取組が各地区で実施された。 ・他団体との連携により、それぞれの専門性や強みを活かすことで、プログラム内容の充実が図られた。 ・地区内の多世代交流だけでなく、大学生や他地区住民との交流機会が生まれ、活動の広がりが見られた。 ・関わる大人の意欲が高まり、新たな活動創出のきっかけになっている。	ィネーターの取組 【課題】 ・コーディネーター未配置の地域がある。（小野・匹見） ・コーディネーターが抱える悩みや問題解決に対し、市として十分な支援ができていない。 ・コーディネーターの取組に関する情報発信が不十分。 【今後の取組方針等】 ・引き続きウェブサイトを活用し公募するほか、公民館等に協力いただき、地域での人材発掘に取り組む。 ・益田市公式ウェブサイト等を活用し、コーディネーターの取組を広く情報発信していく。 ・派遣社会教育主事等による伴走支援の強化。 ・桂平小学校のコミュニティ・スクール設置に伴い、令和 7 年度より二条地区にコーディネーターを配置予定 ・令和 7 年度より「ふるさと・ひとつなぎコーディネーター」として、従前の業務に加え、市出身者とのつながりづくりにも取り組む予定。 （ii）つろうて子育て事業の推進 【課題】 ・地区によって活動の濃淡がある。 ・活動団体の固定化が見られる。 【今後の取組方針等】 ・派遣社会教育主事等による助言、伴走支援を継続する。 ・地域と連携し、新たな人材や活動団体の発掘、育成を行なう。 ・地域自治組織との連携協働の形を模索していく。	

部会名：未来の担い手部会（子ども福祉課、学校教育課、協働のひとづくり推進課）			【資料 1－1】
【①取組の進捗状況・前年度からの改善点等】		【②成果】	【③課題と今後の取組方針等】
・安田、二条、吉田地区多世代交流イベント「バブルサッカー」			

特記事項	※視察及びインターン等の受入れ状況 ・東京都小平市議会 視察（5/13） →ひとづくり施策・ライフキャリア教育について ・大分県日出町 議員視察 5 名（5/24） →ひとづくり施策・ライフキャリア教育について ・早稲田大学講師 実習下見（5/26～28） ・愛媛県八幡浜市公民館連絡協議会 視察 20 名（6/10～11） →公民館の取り組みについて（市内公民館職員の交流も実施） ・岐阜県森林アカデミー 視察 7 名（6/15～17） →ひとづくり施策・ライフキャリア教育について ・北海道中頓別町 視察 7 名（6/24～26） →ひとづくり施策・ライフキャリア教育について ・北海道根室市議会 視察 4 名（7/2） →ひとづくり施策・ライフキャリア教育について ・東京大学大学院生 修士論文研究（7/3～5） →ひとづくり施策・ライフキャリア教育について（対話プラスや益田版・職場体験のアンケートや聞き取り調査を実施） ・栃木県宇都宮市議会 視察 12 名（8/7） →ひとづくり施策・ライフキャリア教育について ・早稲田大学教育学部 ゼミ実習 学生 14 名＋教員 1 名（8/19～8/24） →社会教育実習として実施（市内 7 公民館で活動を展開） ・大正大学生インターンシップ 2 名（8/29） →ひとづくり施策・ライフキャリア教育の説明ならびに、公民館活動へ参加 ・北海道教育大学卒論研究 1 名（9/6） →ひとづくり施策の変遷と効果について研究 ・早稲田大学生オンライン 1 名（10/15） →社会教育コーディネーターについての説明 ・愛知県安城市小学校長 1 名（11/1～2） →ひとづくり施策・ライフキャリア教育・コミュニティ・スクールについて（益田東中学校 6 かるプロジェクトでの対話の場や豊川小学校にて C S 意見交流の場をコーディネート） ・岡山大学生オンライン 1 名（11/17） →市内出身大学生による団体立ち上げと益田市内で実施したいことの相談・支援 ・滋賀県甲賀市議会議員視察 9 名（2/6） →ひとづくり施策・ライフキャリア教育について
------	--